

令和5年度学校自己評価システムシート

(県立北本高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、生きる力を地域社会とともに育む学校
--------	----------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 基礎基本を重視し、確かな学力の育成及び体力の向上を図る。 個に応じた進路指導を充実させ、多様な進路希望の実現を図る。 自主自律の精神と規律を重んじる態度を育成し、豊かな心を育む教育活動を推進する。 地域連携事業を推進し、生徒の社会性及びコミュニケーション能力を育む。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	10名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価		年度目標		年度評価(1月25日現在)		学校関係者評価	
現状と課題		評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	授業に意欲的に取り組んでいる生徒が多くいる現状であるが、更なる基礎学力の向上が重要である。また、生徒1人1台タブレット端末を有効活用した授業の工夫及び改善が必要である。観点別評価においては、前年度の点検を行い、見直しや改善を行う。	組織的な教育力の向上	<ol style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践と授業研究を行い、教育力の向上を図る。 生徒が1人1台タブレット端末を有効に活用できる授業への工夫・改善に取り組む。 観点別評価を教科内で点検し、課題等を全教員で共通認識し、改善を図ると共に、三者面談時に生徒、保護者へ説明を継続的に行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 「授業がわかる」という生徒の割合が90%以上か。 生徒が1人1台タブレット端末を効果的に活用できたか。 教科会議や職員会議において、課題等を共通理解でき、見直しや改善が実施されたか。 	生徒が主体的・対話的で深い学びを実践できる授業環境づくりができた。生徒1人1台タブレット端末の効果的な活用を継続していきたい。 <ol style="list-style-type: none"> 生徒アンケートで「授業がわかる」と回答した生徒の割合が88.0%(昨年度83.3%)となった。 1人1台タブレット端末の導入に伴い、授業の工夫や改善が見られ、効果的な活用ができた。 観点別評価においては、積極的に教科を超えた情報交換ができ、課題等を共有することができた。 	B	効果的なICT活用と主体的・対話的で深い学びのための授業環境づくりを継続的に進めていく必要がある。特に、生徒1人1台タブレット端末の導入に伴い、授業等におけるICT活用についての検討や見直しを行い、課題を精査し、授業等を改善することで、効果的で有効的な活用につなげていきたい。
2	進路指導を段階的に行い、生徒の進路に対する意識を向上させることは、生徒の進路選択において必要不可欠である。また、生徒が進路活動を充実させるためには、保護者との連携を強化させていく必要があり、生徒の進路実現に向け、きめ細かな指導の継続が重要である。	段階的な進路指導の継続	<ol style="list-style-type: none"> 進路通信を定期的に発行し、生徒及び保護者に対して最新の情報提供を行い、進路掲示板等の有効かつ積極的な活用を充実させ、情報共有を図る。 保護者向け進路説明会を継続的に行うと共に、家庭とのさらなる連携強化を図る。 長期休業中等を計画的に活用し、進路実現に向けた個別指導や面接指導を充実させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒及び保護者に対し、最新な情報提供ができたか。進路掲示板等が効果的に活用できたか。 保護者向け進路説明会が実施され、家庭との進路に関する情報共有が行われたか。 個に応じた進路指導が計画的に実施できたか。 	生徒自らが、進路に対する意識を高く持つことができ、個に応じた進路指導が実現できた。進路行事も計画的に実施・運営することができた。 <ol style="list-style-type: none"> 今年度も、進路通信を発行することができ、更に進路面接室を開室し、効果的に活用することができた。 保護者向け進路説明会を5月に実施することができ、早い段階で保護者に対し、情報共有や協力を促せた。 学年別の進路目標を立て、進路活動を実施することができ、生徒の進路意識を高めた。 	A	進路決定者は、大学及び短大35名(昨年37名)、専門学校57名(昨年59名)、就職23名(昨年35名)である。生徒アンケート「生徒の希望や適性に応じた進路指導が行われている」の割合が91.3%(昨年91.2%)と高い水準であった。教員向けの進路研修会を実施することで、教員の進路指導に対する意識を高めたい。
3	生徒指導上の問題行動や整容指導件数は減少し、生徒は落ち着いた学校生活を送っている。しかし、登下校時の自転車における交通事故及び外部からの苦情があるため、生徒に交通安全の意識付けを行うことが重要である。また、多様な生徒が多く入学するため、個に応じた支援を継続的に行うことが不可欠である。さらに、全教員で情報共有し、組織で対応する体制づくりが必要である。	規範意識の向上と主体性の育成	<ol style="list-style-type: none"> 生徒指導上の問題行動や整容指導を時代や世論等の考え方を取り入れながら、継続的に取り組む指導を推進する。 生徒に交通安全指導を含めた社会的ルールを徹底させ、交通事故を防止する。 	<ol style="list-style-type: none"> 定期的な生徒指導を生徒指導部及び学年で検討し、具体的な改善があったか。 交通事故件数及び外部からの苦情件数は減少したか。 	生徒が基本的な生活習慣を形成することができた。 <ol style="list-style-type: none"> 生徒指導部や学年等において、生徒指導上の問題行動や整容指導を見直すことができた。 今年度も、自転車による交通事故4件と登下校時の苦情が報告されているため、生徒に交通マナー等を継続的に指導している。(12月22日現在) 	B	問題行動における指導案件は多少減少しているものの、大きな減少には至っていないため、組織的な対応と保護者との連携を強化していく必要がある。また、登下校時の自転車事故と自転車の乗り方等の苦情があることから、生徒に継続的な交通安全マナーを伝えていくことが重要である。多様な生徒の入学により、個に応じた支援を提供していくことが重要であり、特別支援教育コーディネーターを中心に、全教職員で情報共有を行っていく必要がある。
		個に応じた支援の推進と組織的な体制づくり	<ol style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターを中心とし、組織的な教育相談計画のもと、支援の機会を充実させ、個に応じた支援をより一層深める。 生徒情報等について、学年等で共有するとともに、迅速に管理職へ報告、連絡、相談ができる組織的体制をより一層充実させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 巡回支援相談員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部教育力を有効活用し、個に応じた支援が適切に実施されたか。 迅速に生徒情報が共有できる組織的体制が確立できたか。 	対象生徒にあった支援を提供することができ、組織で対応することができた。 <ol style="list-style-type: none"> 隔週で来校するスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー、年間6回来校する巡回支援相談員等を活用し、対象生徒に支援を継続した。 生徒情報については、学年や生徒指導部等を中心に、全教職員で共有することができた。 	A	
4	本校は、地域との連携が不可欠であり、その中でもKISEP(北本市小・中・高相互交流事業)は重要な交流事業である。KISEPの実施においては、継続的な市内の教育委員会や小中学校との連携が必要である。また、生徒募集や本校の強みと魅力を外部に発信するため、保護者や中学校教員向けの学校公開を実施することやHPの充実が有効な手段である。開校2年目を迎える騎西特別支援学校北本分校との連携を強化し、共に学ぶ機会を増やすことや発展させることが重要である。	地域交流の推進	<ol style="list-style-type: none"> 交流事業の意義を踏まえ、北本市教育委員会及び中丸小学校、市内中学校と連携し、より良い計画を立案し、実施する。 北本市役所、鴻巣警察署、北本市自治会、北本市観光協会等と積極的に連携を図り、可能な効果的な交流事業を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 北本市教育委員会及び中丸小学校、市内中学校と連携し、KISEPの計画立案、より良い活動が実施できたか。 地域機関と積極的に連携を図り、効果的な交流事業に向けた計画が立案され、実施できたか。 	地域との積極的な交流や連携を行うことができ、地域の期待に応えることができた。 <ol style="list-style-type: none"> KISEP事業として、11月7日に中丸小学校でまなびあい、11月29日に北本市立西中学校で書道(書き初め)と数学の出前授業を実施した。 北本市社会福祉協議会と連携したフードドライブをはじめとして、北本市役所や北本市観光協会等と連携により、多くの事業に参加した。 	A	地域連携は、学校にとって重要なことではあるが、教員への負担軽減等のため、主催者側との連携強化と参加方法の工夫等が必要となる。分校と多くの場面で合同開催するなど連携を図ることができたが、課題や検討事項も同時に見えたため、分校連携委員会を中心に協議し、今後も積極的な連携を進めていきたい。本校の魅力を発信するため、中学生とその保護者や中学校教員、地域の方々へのアプローチの工夫が必要である。学校公開を土曜日に設定するなど、多くの方々に来校いただくことや引き続きHPの更新を適宜行うことなど、最新の学校状況の発信に努める。
		本校魅力の効果的な広報活動	<ol style="list-style-type: none"> 保護者や中学校教員向けの学校公開を実施することや学校HPの充実および積極的な発信により、本校の魅力を最大限に広報する。 北本分校と積極的に連携し、共に学び、協力し合う教育環境を構築し、本校生徒及び分校生徒が共生社会を理解すると共に実現する。 	<ol style="list-style-type: none"> 本校の魅力について、中学生や保護者、中学校教員等に広報され、適切な情報発信はできたか。 分校連携委員会が、定期的に開催され、有意義な情報共有が行われ、多くの場面で交流が行われたか。 	保護者や中学校教員に本校の魅力を発信することができた。分校との連携も積極的に行えた。 <ol style="list-style-type: none"> 6月と11月に中学校教員向け学校公開、11月に保護者向け学校公開、9月に学習塾向けの学校公開を実施するとともに、学校HPの積極的な更新により本校の魅力を発信することができた。 体育祭や文化祭等を合同開催することや交流花壇の整備など、多くの場面で積極的に交流を図ることができた。 	A	

学校関係者からの意見・要望・評価等

基礎基本の積み重ねにより、生徒の主体的な活動に繋がっている。高校でも、生徒1人1台タブレット端末導入により、授業の進め方等が大きく変わってきている。その中で、ICT機器やタブレット端末を有効的に活用するには、他校の活用事例等を参考にするなど、先生方の積極的な日々の授業の研究や工夫が必要である。来年度も、生徒の学習習慣の定着と基礎学力の向上に繋がるよう、指導の継続をお願いしたい。

段階的な進路指導により、生徒の意識向上に繋がっている。現在、上級学校に進学するだけの進路選択ではなくなっていることから、一人ひとりの進路実現のため、今後も生徒へのサポートが必要である。また、様々なキャリアデザインが存在すると思われるため、多様な進路(進学・就職)の関係機関との連携が必要である。また、保護者に対して、卒業生を招いて話を聞く機会などの情報提供の場を増やして欲しい。

先生方の指導により、どの学年も落ち着いて授業を受けている。次の段階として整容指導については、「TPO」や「ON・OFF」を生徒に考えさせ、幅を持たせた中で生徒が主体的、自発的に規律を重んじるような指導を考へて良いのではないかと。教員による声掛けは、生徒の意欲を高める一助を担っている。そこで、ポジティブな声掛けを繰り返すことにより、生徒が先生に認められたという経験を積み重ねることが重要である。また、個に応じた支援については、特別支援教育コーディネーターを中心に、全教職員で情報共有を行っていく必要がある。

今年度も、地域連携については積極的に実施していた。KISEPの取組を通しての北本市内の小中学校や地域事業に係る関係団体等との連携については、今後の北本市を盛り上げるためにも継続して欲しい。分校との連携については、障害理解のほかにもソーシャルインクルージョンの考え方を生徒に伝える良い機会になるのではないかと。今後も、体育祭や文化祭を中心とした学校行事や色々な場面での積極的な連携をお願いしたい。学校HPがこまめに更新されているため、学校の様子や生徒の活躍が随時わかり、とても良かった。本校の魅力や生徒の学校生活を外部に発信することは、生徒募集にも繋がるため、積極的に進めて欲しい。学校HPについては、保護者への周知とともに、中学生やその保護者、卒業生にも気軽にアクセスしてもらえるよう期待している。